

ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業
取組の概要と選定委員会からの主なコメント

代表校名 (連携校名)	高知大学 (三重大学、和歌山県立医科大学) 計3大学
事業名	黒潮医療人養成プロジェクト
事業責任者	医学部長 降幡 睦夫
事業の概要	
<p>連携する3校の立地は、高齢化率が高く、長い海岸線に沿って集落が点在し、県庁所在地から遠隔地の医療確保が課題となっている。さらに、南海トラフ巨大地震により甚大な津波被害が想定されている。このような地域課題を共有する3校において、過疎地域に立地する地域医療人材養成拠点病院を核に地域医療人材の養成を目指す。いずれの大学でも低学年からの体験実習をおこなう他、複数年次にまたがるアクティブラーニングコースにより継続的な学習機会を設ける。とくに南海トラフ巨大地震を想定した教育は、地域医師会、行政とも連携し充実を図る。教育講演会の合同開催、教育コンテンツの共同開発、オンラインでの学生交流など大学間交流により質の向上を目指す。6年次で地域医療人材養成拠点病院での長期クリニカルクラークシップを実施し、学生の相互派遣ができる体制を構築する。6年間を通じて多様な学びを提供し、地域医療ニーズに応える医療人を養成する。</p>	
選定委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○同じ課題を抱える地域の3大学での連携で低学年からの体験学習、アクティブラーニング、長期のクリニカルクラークシップと継続的な教育体制は学生が地域のニーズを理解し、地域での活躍が期待できる。</p> <p>○3大学とも低学年での地域医療実習から始まり、6年次の地域医療人材養成拠点医療機関での実習は連携大学間での相互の受け入れが可能で各地域の抱える課題とその対策を体験し、自らの課題解決能力を高めることができることは評価できる。</p> <p>○各大学の自治体連携については具体的に示されている。</p> <p>○評価についても相互のサイトビジット、外部委員などを含む評価委員会での評価体制も実効性が期待できる。</p> <p>○各大学の地域医療支援センターが関わっているため、本事業が終了しても一部の地域偏在対策などが継続されることが期待できる。</p> <p>○令和5年度以降の実施計画が詳細かつ具体的である。</p> <p>●長期クリニカルクラークシップに地域枠だけでなく一般枠の学生に興味を持ってもらえるかが重要と思うが、そこに向けての具体的な施策について、説得力が欠けているよう思われる。</p> <p>●各プログラムで連携して教員・学生を受け入れる記載されているが、指導体制について具体的な記載が乏しい。また、記載されているプログラムが従来のプログラムがどのように発展され、どのように効果的なのか読み取れない。</p> <p>●自己評価体制について、具体的にどんな評価を行うかの記載がない。</p> <p>●普及に関して、活動とアウトプットは記載されているが、アウトカムおよびそれを評価する指標が設定されていない。</p> <p>●運営予算獲得について具体案が示されていない。</p>	